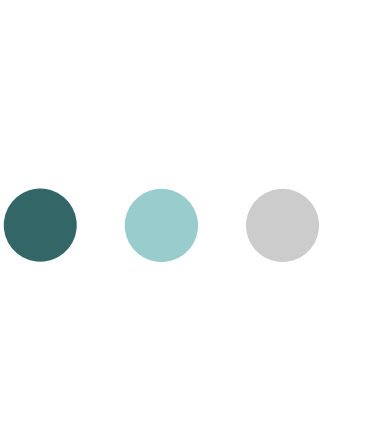


資料3

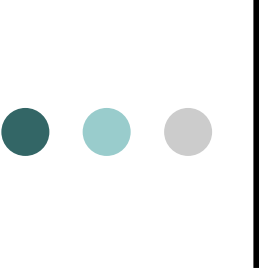


平成18年度 緊急時対応訓練について

- 計画～課題の抽出まで -

平成19年3月12日(月)
食品安全委員会事務局

1. 平成18年度緊急時対応訓練計画



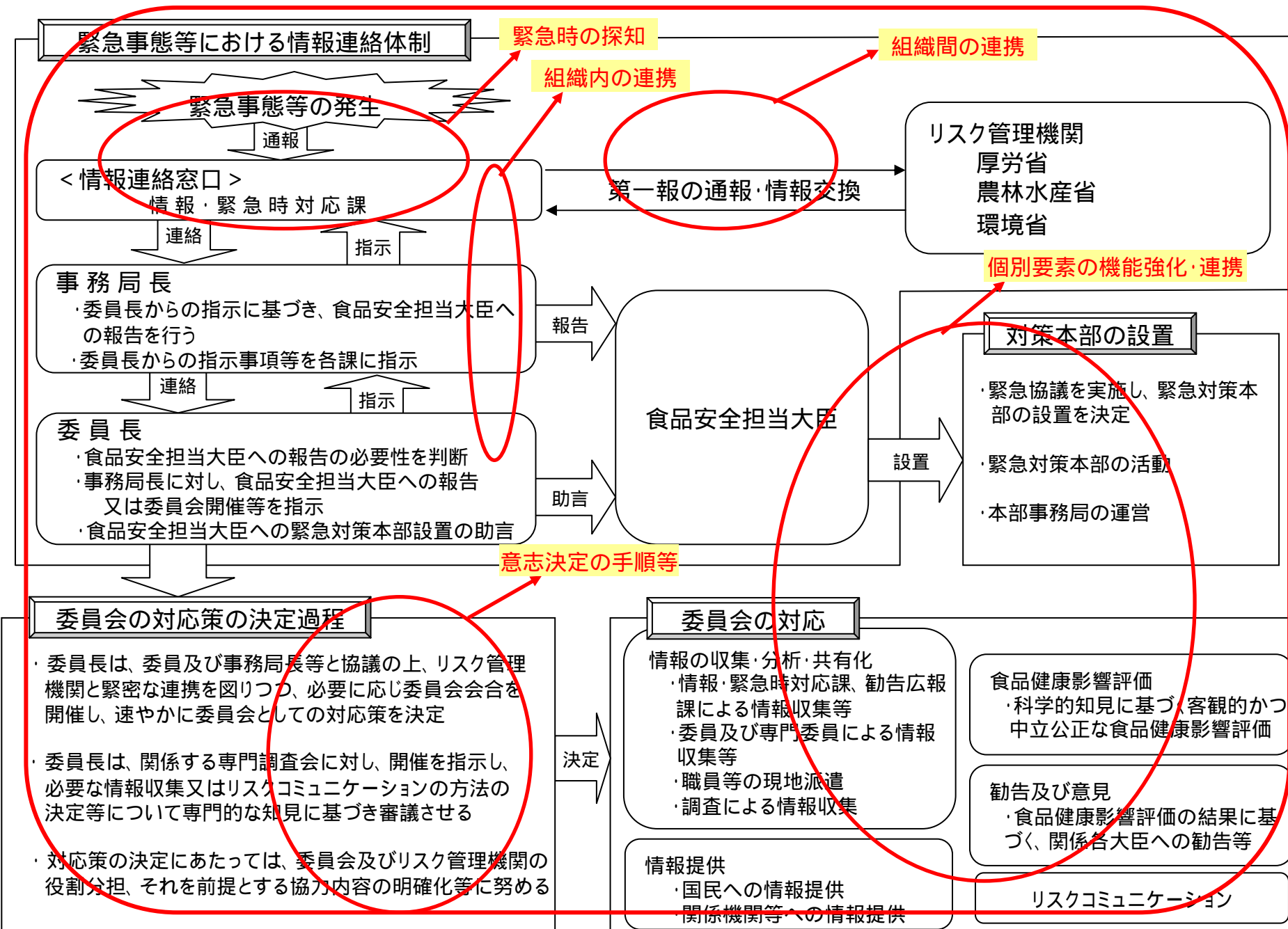
目的

- 食品安全委員及び事務局員が緊急事態及び緊急時対応の共通認識を持つ。
- 対応力や判断能力を向上させる。
- 緊急時対応マニュアルの適確性を確認する。
- 緊急時対応手順を確認する。
- 定められた対応を迅速かつ確実に実施する。

今年度の訓練計画について

回	テーマ(目的)例	種類	内容例
第1回	緊急事態についての 展開イメージの 共有	机上 シミュレーション	関係者が一堂に会し、緊急事態を設定の上、時系列に沿って、想定される事態の進展、初動体制の段取り等、マニュアルの分掌に則り話し合う。
第2回	緊急時 マニュアル の実効性検証	シナリオ 非提示型訓練	訓練対象者に緊急事態に関する情報を適宜付与。訓練対象者は、マニュアルに従いつつ、臨機応変に判断・行動する。
第3回	緊急時広報に関する 対応能力の向上	個別要素訓練	訓練対象者が、専門家レクチャー受講、広報文案の作成、記者会見の模擬実施等を行う。

食品安全委員会緊急時対応マニュアルにおける緊急時対応訓練



2. 第1回訓練について ～ 机上シミュレーション ～

● ● ● | 第1回訓練の目標

- 予め設定した緊急事態が「どう進展していきそうか」「関係各所はいつどのような対応を行うか」について話し合うことにより、

食品安全委員会が対応すべき緊急事態についての展開イメージを共有する

シナリオ非提示型訓練に向けた課題を抽出する

● ● ● | 第1回訓練の内容

- 形式：机上シミュレーション
- 訓練対象者：委員及び委員会事務局幹部
- 設定：サルモネラ属菌による食中毒が発生、拡大化。
死者も発生。
- 進行： 準備したシナリオを4フェーズに分割
各フェーズ毎にコントローラーが情報を付与
付与された情報をもとにプレイヤーが対応を
協議
 - プレイヤーは必要に応じて、幹部、委員と協議
 - プレイヤーによる対応決定後に次のフェーズに移行

第1回訓練の結果

< 訓練目標に対する結果 >

食品安全委員会が対応すべき緊急事態についての
展開イメージを共有する

- 提示された「緊急事態」での「緊急時対応」については、プレーヤー間で展開イメージを共有することができたが、プレーヤーのこれまでの経験等により、「緊急時対応」の判断に違いが生じた。

第1回訓練の結果

実動訓練(シナリオ非提示型)に向けた課題を抽出する

情報収集・共有体制について

- 情報収集体制の確保
- 関係者間の情報共有体制の確保
- 収集した情報の分析・評価体制の確保

情報提供について

- 国民、専門委員等への迅速な情報提供体制の確保
- マスメディアとのコミュニケーション手段の確保

食品安全委員会の開催について

- リスク管理機関からの報告の要請
- リスク管理機関との連携について
- リスク管理機関との連携体制の確保

緊急時対応
マニュアル
の実効性を
高める

第1回訓練の結果

< 訓練の運営について >

- 議論がシナリオの精度に誘引され、議論が散漫になる傾向にあった。
- シナリオ非提示型の訓練であったため、プレイヤーがシナリオを理解する時間がなく、議論しなかった。
- 進行役がフェーズ毎に議論を整理すると論点がわかりやすかった。

第1回訓練の課題

< 緊急時対応について >

(1) プレーヤーのこれまでの経験等により、「緊急時対応の判断に違いが生じる。

- 机上シミュレーション訓練を繰り返し行うことにより多くの事例の展開イメージの共有を図る。
- 危機管理に必要な考え方、技術を再確認する。
 - 「平時ではない状態」 = 「緊急時対応開始」
 - 「緊急時対応」 = 「緊急事態のレベルをいかに低減するか」

第1回訓練の課題

(2) 緊急時対応マニュアルの実効性を高める

(実動訓練例)

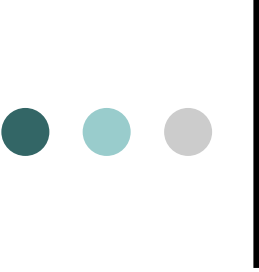
- 利用可能、設置可能な会議の種類と対応範囲の確認
- 緊急時対応における事務局の体制の確認
- 情報提供体制と手順の確認

● ● ● | 第1回訓練の課題

< 訓練の運営について >

- (1) 議論がシナリオの精度に誘引される
 - 訓練の事前説明を十分に行う。
 - 訓練のねらいに適したシナリオを作成する。
- (2) プレーヤーがシナリオを理解する時間がない
 - 議論する際の情報提供内容の提示の仕方を工夫する。
- (3) 議論が整理されない
 - 議論の段取りを工夫する。

3. 第2回訓練について ～ 実動訓練 ～



第2回訓練の目標

- 緊急時対応を迅速かつ適切に行うとともに、実践能力の向上を図る。
 - 事務局内の情報共有をしっかりと行う。
 - 緊急時における消費者やマスコミからの問い合わせに対する対応を確認する。
- 緊急対策本部設置に向けて、緊急対策本部事務局を設置し、その手順を確認する。

第2回訓練の内容

- 形式：シナリオ非提示型実動訓練
- 訓練対象者：委員及び委員会事務局員
- 設定：O157による食中毒が発生、拡大化。死者も発生している中、緊急対策本部設置を見据えた緊急協議を開催することを食品安全関係府省連絡会議（局長級）で確認
- 進行： 委員・事務局会議を開催
（訓練の開催宣言と終了宣言）
緊急対策本部事務局体制
 - ・緊急協議開催、緊急対策本部立ち上げ作業
 - ・収集した情報の共有
 - ・外部からの問い合わせ対応

[illegible]

第2回訓練の結果

緊急時対応を迅速かつ適切に行うとともに、実践能力の向上を図る。

- 事務局内の情報共有をしっかりと行う。
- 緊急時における消費者やマスコミからの問い合わせに対する対応を確認する。

- 与えられた役割はほぼこなすことができたが、対応の基本的な能力については更なる向上の余地がある。
- 緊急時対応における作業内容等の見直しが必要。
- 事務局内の情報共有については、状況の把握、迅速な共有について課題がでた。
- 問い合わせに対する対応は概ね上手くいった。

第2回訓練の結果

< 訓練目標に対する結果 >

緊急対策本部設置に向けて、緊急対策本部事務局を設置しその手順を確認する。

- 緊急時対応マニュアルにそって緊急対策本部を設置し、その手順を確認することができた。
- 訓練を行うことで、必要な事前準備事項が整理された。

● ● ● | 第2回訓練の結果

< 訓練の運営について >

○ 訓練内容の理解

- 複数回の事前説明により参加者に理解された。

○ 訓練の構成

- 参加者をゼッケンで色分けしたのはわかりやすい。
- 「協力者」の位置付けがあいまいでわかりにくい。
- 付与情報の量に比べ、プレーヤーの人数が少なかった。
- 忙しい人と比較的時間に余裕のある人があった。
- 訓練のステージが緊急時対応マニュアルのどの部分に該当するのかがわかりにくかった。

第2回訓練の課題

(1) 対策本部設置の手順について

- 緊急時対応マニュアルの再確認

- 班の役割の再検討や指示系統・連絡系統等の再確認

- 緊急協議の方法の検討

- 対応記録等の記録の取り方の確認の必要性

- 様式の整備、事務的な作業の手順書の作成

● ● ● | 第2回訓練の課題

(2) 情報共有体制について

- 事務局内の情報共有体制を見直す必要がある。
 - ホワイトボードの活用、情報の共有ルールを具体化等
 - 同室での作業の検討(緊急対策本部事務局)

(3) 外部からの問い合わせに対する対応力について

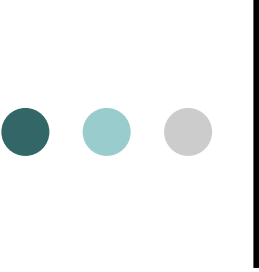
- Q & A等を事前に作成する等の対処方法をマニュアル化する必要がある。

第2回訓練の課題

< 訓練の運営について >

- 今回の訓練内容を再検討し、適切な訓練計画を立てる。
- 異なったステージにおける実動訓練を実施し、緊急時対応マニュアルを検証する。
- 訓練が緊急時対応マニュアルのどの部分に該当するかを明確にし、訓練結果とマニュアルの実効性の検証がどう対応するのかを明確にする。
- 机上シミュレーションと実動訓練を同じ局面とし、同じ参加者に対して訓練を行い、机上シミュレーションが実際にどのように活かされるかを確認する。
- 訓練の継続実施。

4 . 第3回訓練 ～ 個別要素訓練 ～



第3回訓練の目標

- 食品安全委員会が情報発信すべき緊急事態についての展開イメージを共有する。
- 緊急時の記者会見を模擬的に実施し、対応能力の向上を図る。

● ● ● 第3回訓練の内容

- 形式：個別要素訓練（机上シミュレーション＋実動訓練）
- 訓練対象者：委員及び事務局幹部
- 設定：O157による食中毒が発生、拡大化。死者も発生。
- 進行： 情報提供についてのレクチャー
（野村食品安全委員会委員）

情報提供の在り方についての検討

- 机上シミュレーション形式で、事前アンケートの結果を検討しながら、緊急時の情報提供等の対応について、共通認識を図った。

模擬記者会見

- 被害が拡大する中委員長談話を発表し、委員長による記者会見を行う、という設定の模擬記者会見を実施。

第3回訓練の結果

< 訓練目標に対する結果 >

食品安全委員会が情報発信すべき緊急事態についての展開イメージを共有する。

- 関係者で議論することで、「委員会の情報提供の在り方について」整理することができ、認識の共有を図ることができたが、やはりプレーヤーの立場による考え方の違いや認識の違いも明確になった。

第3回訓練の結果

緊急時の記者会見を模擬的に実施し、対応能力の向上を図る。

- プレーヤー自身が、疑似体験することにより、広報対応の難しさについて自覚することができた。
- 対応時の注意点や課題点を抽出することができた。

第3回訓練の結果

< 訓練の運営について >

- 事前アンケートで論点を整理しての議論は、プレイヤーに検討の時間を与えることができ、また議題も整理された。
- 事前アンケートの内容については精査する必要がある。
- 論点が整理されるような議論の進行を工夫する必要がある。

● ● ● | 第3回訓練の課題

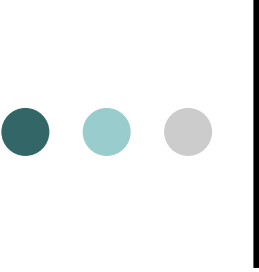
< 情報提供について >

- (1) プレーヤーの立場による考え方や認識の違いの調整
 - 今後も想定事例ごとの机上シミュレーションを繰り返し行い、多くの事例で展開イメージの共有を図る必要がある。
- (2) 平時からの情報収集及び分析の充実
- (3) 委員長談話等を含めるキーワードの整理
 - 様々な設定でのシミュレーションを行い、「委員長談話」「委員会の考え方」に含めるキーワードを整理する。

第3回訓練の課題

< 模擬記者会見 >

- (1) 会見で守るべき要素(服装・仕草・表情・話し方等)を習得する
 - 広報に関する講習やメディアトレーニングの必要性
- (2) 経験を積み、場慣れしておく
 - 様々な設定の訓練を繰り返し実施
 - 訓練対象者を変えて実施



第3回訓練の課題

< 訓練の運営について >

- 各想定の段階で、情報を提供した場合のメリット / デメリットの分析の実施等、論点を整理する
- 事前アンケートの内容等については更に検討の必要がある。